

「付 録 資 料」 (1) (17.11.21)

1. 聖書による環境倫理の基礎

- ・人間と被造物 (創世記 1-3 章、11 章)

「天地万物創造物語」において、神は、カオス (混沌) と闇から、コスモ (秩序と調和) を基本原理にして万物を創造された。だから、すべては傑作と言えよう。詩編においても被造物が神を賛美している (詩編 148.1-8 参照)

- ・創造におけるキーワード「祝福」

生きものが神によって祝福された (創世記 1.22 参照)。

男と女が祝福された (同上 1.28 参照)。

第七の日も祝福された (同上 1.3 参照)。

- ・神に祝福されたものを、人間が破壊できない。

- ・創造賛歌は、捕囚時代の最中に祭司グループによって編集された。

したがって、その時代背景つまりエルサレムの破壊と捕囚という敗北の時代に、その試練を乗り越えるために書かれたと言えよう。

- ・「神の似姿である人間の尊厳と使命」 (同上 1.26-27 参照)。

・神の像の原型は、イエス・キリストであり、すべてのものは、御子において御子のために造られたので、人間が勝手に破壊することは創造主への反逆である (コロサイ 1.15-16 参照)。

・「支配させよう (1.28c)、従わせよ (1.28b)、支配せよ (1.28c)」の適切な再解釈が今日特に必要である。

人間が、他の被造物を敬意と愛とをもって守り育てる義務が課せられたのであって、人間の欲望を満たすために勝手に支配し、利用するという近代合理主義の誤りを反省するのが遅すぎた。

「人間の御心に適う他の被造物への関係とは」 (知恵 9.2-3 参照)。

2. 「環境問題に関する教皇フランシスコの回勅 : Laudato Si (ともに暮らす家を大切に) の切なる「わたしの訴え : 皆がともに暮らす家を保護するという切迫した課題

は、人類家族全体を一つにし、持続可能で全人的 (integral) な発展を追求するという関心を含意しています。と言うには、物事は変わりうると、わたしたちは知っているからです。神は決してわたしたちをお見捨てになりません。神は、決してご自分の愛する計画を放棄するなど、わたしたちをお造りになったことを後悔したりなさいません。(筆者の挿入：知恵の書 11.23-26 参照)。人類はまだ、皆がともに暮らす家を建設するために一緒に働く能力をもっています。(筆者の挿入：パベルの塔建設の正しい再開とは)。・・・環境悪化が世界の最も貧しい人々の生活にもたらす悲惨な結果の解決策を勢力的に探究している人々は、特別の感謝に値します。若者たちは、変化を求めます (13 項)。

そこで私は、自分たちの星の未来をわたしたちがどのように形づくろうとするかについて新たな対話が必要である、と執拗に訴えます。・・・残念ながら、環境危機の具体的解決を探る取り組みは、強力な抵抗によるだけでなく、より一般的にみられる関心の欠如によっても、その多くが^{くじ}挫かれました。・・・南アフリカの司教団が述べたように、『神の創造の御業を人間が濫用して生じさせた損傷を修復するためには、あらゆる人の才能と関与が必要です。』わたしたちは皆、神の道具として、被造物を世話するために、各々自分の文化や経験、自発性や才能に応じた協力ができるのです (14 項)。

たとえば、貧しい人々と地球の脆弱^{ぜいじゃく}さとの間にある密接なかかわり、世界中のあらゆるものはつながっているという確信、テクノロジーに由来する勢力の新たなパラダイムと権力形態の批判、経済や進歩についての従来とは別の理解の方法を探ろうという呼びかけ、それぞれの被造物に固有な価値、エコロジーの人間の意味、率直で正直な討議の必要性、国際的な政策及び地域的な政策が有する重大な責任、使い捨て文化、そして新たなライフスタイルについてです」(16 項)。

1. 地球にやさしい文化創造の今日的責任

・手引き：【第一課題・創造主なる神への賛歌】第2テーマ「エデンの園に置かれ耕す人間」テキスト：[創世記 2 章 4 節 b ~ 25] 参照。

・文化の福音化の急務：福者パウロ 6 世教皇の使徒的勸告「現代世界の福音化」「福音と文化の分裂は他の時代にもありましたが、特に今日著しいことは疑いないことです。ですから、人類の文化、さらに正確には諸文化そのものを福音化するために、あらゆる努力が肝要です。諸文化は福音と出会うことによって再生されるべきものです。しかし、この出会いは、福音がまず宣べられなければ望めないことです」(20 項)。